

THE Y'S MEN'S CLUB OF NASU

NETWORK NASU

CHARTERED 1995



那須ワイズメンズク

2020~2021年度 No.263

11月報

那須クラブ会長 主題

地域につなげ那須ワイズ III



強調月間：ASF

ワイズデー（10日）

今月の聖句

すると、王座に座っている方が、「見よ、わたしは万物を新しくする」と言い、また、「書き記せ。これらの言葉は信頼でき、また真実である」と言われた。

ヨハネの黙示録 21 : 5

11月第1例会(日本文化を知ろう 茶道)

日時：11月23日(火・祝日)午後2時~

場所：遠山宗定師匠宅 那須塩原市二区町369

内容：日本の文化を知ろう・お茶の会

会費：1,000円

参加者は、16日(火)までに河野会長(0287-22-5380)

に連絡。

コロナ対策として、検温とアルコール消毒を行います。

「三蜜」にならないように注意

司会：平山 雄大 担当主事

開会点鐘

会長 河野 順子

会長挨拶

会長 河野 順子

ワイズソング斉唱

一同

ワイズ信条の朗読

一同

聖書朗読・祈禱

田村 修也 メン

ゲスト紹介

茶道についての講話

遠山宗定師匠

茶道体験

茶室にて

ワイズ・YMCA報告

YMCAの歌

一同

閉会挨拶・点鐘

会長 河野 順子

地図は別ページにあります。

2021~2022年度 主題

国際会長：(IP) サム・サンテ(韓国)

「世界とともにワイズメン」

アジア太平洋地域会長：(AP) 大野 勉(神戸ポート)

「100年を超えて変革しよう」

東日本区理事：(RD) 大久保 知宏(宇都宮)

「私たちは次の世代のために何ができるのか？」

北東部長：南澤 一右(仙台青葉城)

「変化を楽しみながら新生北東部を創ろう！」

クラブ役員

会長：河野 順子

副会長：村田 榮・田村 修也

書記：藤生 強

会計：村田 榮・鈴木 保江

担当主事：平山 雄大

ブリテン：田村 修也・村田 榮

10月例会データ(出席率：66.7%)

在籍者 7名(内 功労会員1名)

3名 メイクアップ1名、メネット1名ゲスト3名

11月 Happy Birthday

なし

・12月第2例会(役員会)

日時：11月26日(金)午後4時30分から

場所：田村メン宅

・12月第1例会(クリスマス讃美礼拝)

日時：12月11日(土)午後6時から

内容：クリスマス讃美とパイプオルガンの演奏を楽しむ

場所：日本基督教団 西那須野教会

巻 頭 言

【心が動かされた瞬間】

担当主事 平山 雄大

現在、とちぎYMCAでは毎月3つの定例野外活動、毎週土曜日の活動、長期休みを利用したシーズンプログラムなど様々な野外活動を行っています。そこに参加している子どもたちも様々な理由で参加してくれています。

参加してくれている子どもたちが活動を通し、共通して感じてくれていることがあると思っています。それは活動の中で「心が動かされた瞬間がある」ということです。

それはグループのメンバーとのやり取りの中かもしれない、活動が楽しかった時なのかもしれない。活動の中にはそんな「心が動かされた瞬間＝感動」が溢れています。そんな感動の一つ一つが心を成長させる要因になり、心が成長することで行動も身体も成長していく。

そんな成長のサポートをし、伴走し続けるのがYMCAなのではと思います。もちろんこれは参加してくれているメンバーだけでなく、ユースボランティアリーダーたちも同じです。

メンバーと同じようにリーダーたちにも「心が動かされた瞬間＝感動」をYMCAの活動の中で感じ、それが日常の生活の中でも感じ取れるようになってもらえたらスタッフとしてとても嬉しいことだと思います。

私はそんな「心が動かされた瞬間＝感動」を繋がる全ての人に届けられるように過ごしていきたいと思っています。



墓沼用水の取入口よりトンネルを出たところにて

2021.10.23

10月第1(墓沼用水探索)例会報告

報告者：河野会長

日時：10月23日(土)午前9時30分集合

場所：河野会長宅前の道路

出席者：河野会長、田村副会長、村田副会長、田村メネット、ゲスト：張ウエリ、赤坂ご夫妻。

10月23日(土)墓沼用水探訪が実現しました。数回、企画しましたが天候の都合で今日になりました。9時30分、ゲスト3名、メンバー3名、メネット1名の7名。村田メンの車一台ですみました。

集合場所は河野宅で、始めに庭で「墓沼用水とは、これからの行程下流から上流へ」と説明を田村メンから資料に沿って説明を受けた。

田村メンが始めに向かったのは、河野宅の屋敷内に流れる用水路。これが墓沼から流れているとの説明。50年以上住んでいるのにそれも知らずにいました。この用水は、現在もきれいです。直ぐ近くの城山公園脇に流れる蛇尾川に合流するのを確認し、上流に向かいました。乃木神社の入り口に細い流れ



があります。伊勢神宮の五十鈴川になぞらえ、乃木神社もこの細い流れ

が一段と風格を上げているとの説明。西那須野を横断して接骨木(にわたこ)・横林へ。そこの道路沿いは、豊かな水が勢いよく流れている。墓沼用水は、はじめはこの接骨木(村)を含めた上流の5か村で利用したもので接骨木堀とも呼ばれたそう。この辺から少しずつ勾配が付いている。更に塩原の北東に向かって7名を乗せた車は走る。晴天であったが東の空に大きな重い雲が。この地で育っていないゲストの3人は、どこを走っているか分からない。塩原と那須の間の山を蛇尾川に沿って走っている。

山間は時雨れてきた。墓沼用水が那須疎水と立体交差する場所は何と感動的。墓沼用水が上を通っていて、墓沼用水があふれた時は那須疎水に落ちる様になっている。

さらに上流に行くと折戸、遅野沢、日の出の部落。途中、暗渠になり時には細い。

発電所が2カ所あって、蛇尾川発電所は昭和36年に作られたもので、その水管は長く、勾配は急で、壮観である。そしてとうとう取り入れ口からトンネ

ルを出たところにたどり着く。道は狭く雨が降ってきてぬかるみがあり、大きな車の運転は難儀だと思いが村田メンは淡々とバック。

帰路、那須疎水が蛇尾川を横断するのに対岸からサイフォンの原理で亘ってきている地で、準備してきた用具でクリーン作業として周りのゴミ拾いを行い、10月の例会は全員満足して散会となった。ゲストの皆さん、お疲れ様でした。



11月第2例会(役員会)報告

日時：10月29日(金)午後4時30分～

場所：田村副会長宅

出席者：河野会長、田村副会長、村田副会長、平山担当主事

協議事項

1. 10月第1例会について

待ちに待った買いで、参加者は満足できた。少し時間不足になった。車運転と清掃代を含めて、5,000円を村田副会長に支払う。

2. 11月第1例会について

日本の文化を知ろうし、茶道を学ぶ。ユースリーダーの参加を考えて、11月23日(火・祝日)に行く。場所は、遠山定師匠宅(那須塩原市二区町369)にお願いし、行く。謝礼は、遠山師匠5,000円、お手伝いをしていただく方々に3,000円。その他茶菓子代を支払う。メンバーは午後1時30分に集合し、車の駐車・案内等を行う。

3. 12月役員会(第2例会)について

1 1月26日(金)午後4時30分から、田村ワイズ宅にて開催する。田村宅に会場費と500円を支払う。ZOOMでの参加も可能。

4. 12月例会について

12月11日(土)午後6時より、日本基督教団西那須野教会にて開催する。内容は、クリスマス讃美礼拝とパイプオルガンを楽しむ。コロナのことを考えて、昨年同様、祝会はなし。招待者は、養徳園、ユースリーダー、その他。詳細については、12月役員会で決める。奨励は、潘先生。オルガニストは木村眞喜子さんに依頼する。

5. ミャンマー支援金について

5,000を献金する。10月29日に送金済。

6. 張さんの入会について

河野会長が張さんの入会意思を確認し、手続きを進める。入会式は、12月例会時とする。年会費(本部等に収める金額相当分20,000円)とYMCA会費(10,000円)の30,000円とする。今年度は、10,000円のYMCA会費を徴収する。例会ごとの会費は皆と同じとする。

旧西那須野(那須西原)の緑と水(第103回)

田村修也

武さんのお父さんの寿茂さんも、前述しましたように、家督を継いでわずか9年で世をさりました。安政6年(1859)11月のことでした。武さんは僅か10才で家業を引継ぎ、父親に代わり佐倉潘から矢板村組頭役見習いを被命されることになりました。祖母の美與子さんは孫の武さんを頼りにして、祖父茂寿さんの倉掛新道の開削や父の寿茂さんの家業への精進したことを常々話して聞かせていたことは容易に推測することが出来ます。

その頃、坂巻家の納屋を改造して私塾を開いて、子弟の教育にあっていたのは、もと川越藩士の原田左司馬という人でした。坂巻家を訪れた左司馬は寄寓を許されて祖母美與子の希望を受けて私塾を開いて学問を授けることになったのでした。武さんもその中に加わって規則正しく教育を受けたのでした。進取の気性の激しい武さんは、組頭役見習中はもとより、矢板村外9ヶ村の名主頭になるまで、師の左司馬について道を修め教養を高めたのでした。師の左司馬はその後、坂巻家の女中を妻に娶って住まいを移して私塾を続け、晩年まで矢板村で過ごしました。明治2年(1869)に亡くなり、武さんは門人と共にその霊を弔い、坂巻家の墓地に葬りました。

祖父と父の生き方と原田左司馬は、坂巻家の当主

としての武さんに公共福祉・興業殖産の精神と教育の重要性を培った師となったことは間違いありません。

万延元年(1860)は、3月3日に井伊大老が桜田門外で水戸浪士等に暗殺され、その後幕府の中心に立った安藤正信も、和宮降嫁問題や開国策の推進等のため坂下門外で傷つけられ、失脚した年でもありました。幕府の御用達金調達もきびしくなったり、物価は高騰したりして、庶民や下級武士の生活は困窮を深め、村方三役の仕事も並大抵ではありませんでした。見習役の武さんも無事に6年間を勤め、慶応2年(1866)3月抜擢されて矢板村組頭を申し付けられました。17才の時でした。

慶応3年(1867)10月14日に、幕府は大政を奉還し、翌日の15日に受理されて江戸幕府は崩壊しました。明治元年(1868)封建の制度は改められて、県内の幕府直轄地はいずれも真岡県の所管となり、翌年旗本知行地と共に日光県に移り、明治4年(1872)廃藩置県と共に藩領は奉還されて宇都宮県の所轄となりましたが、それまで矢板村は佐倉藩領の管轄を受けていました。

武さんは明治2年4月には、村方三役の長として名主に選ばれ、「下部行政のほか村民一般の私生活についても管理監督」して、租税の割当、取立、納入、決算等の一切の責任を持たされていました。続いてこの年の6月には、適確な判断と手腕が期待されて矢板村他9ヶ村の名主頭となりました。武さんと親交のあった矢板竹松という学者が矢板村を訪れました。この人は原田左司馬が亡くなった後、地元有志の懇願によって私塾を開いて子弟の教育に尽くしました。後に武さんが教育振興に力を尽くしたのは、この矢板竹松師の影響が大きかったと言われてい

ます。
慶応4年6月4日 真岡代官所領が官軍の支配となり、真岡県が置かれる。

同年9月8日 元号が「明治」と改元。

明治2年3月 真岡県が廃止され、新たに日光県が置かれる。

明治4年11月 栃木県と宇都宮県の2県に統合(藩県合併)

明治6年6月15日 栃木・宇都宮両県が統合され栃木県となる(県令鍋嶋幹)。

こうして中央集権化の動きは町村制度の改組にまで進み、これまでの宿村制は廃止されました。庄屋・名主等が姿を消して、新たに戸長・副戸長に一本化され、それと同時に行政単位も大区・小区制に統一されました。(以下次号へ)

西那須野幼稚園だより

学校法人 西那須野学園
西那須野幼稚園

園長・理事長 福本 光男

「そこで、わたしのこれらの言葉を聞いて行う者は皆、岩の上に自分の家を建てた賢い人に似ている。雨が降り、川があふれ、風が吹いてその家を襲っても、倒れなかった。岩を土台としていたからである」(新約聖書 マタイによる福音書7-24、25)

朝、園庭に行くと子ども達がいろんな話をしてくれます。「園長先生、あと一日で誕生日なの」と走り寄ってくれた年中児は、本当にうれしそうでした。「コロオロギが死んでたから、二人でお墓を作ったから見に来て」と、うず高く山をつくり、上には葉っぱが飾ってありました。さすがは、年長児と感心しました。

園庭では、様々な遊びがドラマティックに展開されています。そのようななかで、二人の年少児が、ジャンピングという遊具を棒代わりにして、楽しそうに走りながら地面に線を引いていました。「先生、線路だよ」、よく見ますと、曲がりくねったり、重なったり、そして、渦のようになっていたりしている線もありました。友達がいますと、たった棒一本だけでもこんなにも長い時間を楽しく遊べる子ども達に驚きました。これからをより良く生きる非認知能力の基礎が着々とできていることを実感しました。

さて、当園ではキリスト教礼拝の時間があります。年少組は牧師村松良枝先生、年中組は牧師久留生夏江先生、そして年長組は牧師潘炯旭(バンヒョンウク)先生がご奉仕下さっています。

人生を家に例えますと、雨の日も風の日もあります。また、時には倒れるような厳しい体験をすることもあるでしょう。生きていく限り、試練や困難は避けられません。冒頭の25節には、「雨が降り、川があふれ、風が吹いてその家を襲っても、倒れなかった。岩を土台としていたからである」とあります。聖書では、しばしば岩は神に例えられます。イエス・キリストの話を受けて行う人は、風雨が襲っても、その岩である頑丈な土台によって守られ、支えられます。幼稚園での礼拝の経験は、子ども達が人生設計や社会を作っていくときにもあらゆる場面で、どのように生きていくかのヒントになるでしょう。人は弱く危うい存在ですが、遊びで培った非認知能力と聖書の御言葉の岩は、固くゆるぎのないものです。子ども達は、安心して人生の風雨でも過

ごせると考えます。



今年もきれいに飾られたおもちゃカボチャ

アジア学院だより

学校法人 アジア学院

アジア農村指導者養成専門学校

校長 荒川 朋子

来日を待つ人々

10月22日のある新聞記事にふと目がいった。よく知る名前があったからだ。記事には10月21日にポール ヘイスティングスさんという方がニューヨークの日本総領事を通じて、日本政府に留学生の受け入れ再開の要望書をハーバード大学やプリンストン大学といった有名大学を巻き込んで650名以上の署名と共に提出したとある。ポールさんはニューヨークにある国際基督教大学財団の若き事務局長で、アジア学院北米後援会の代表理事も務めてくださっている方だ。お父様は日本で長く宣教師をされていた方で、ポールさん自身も小学校と中学校を日本で過ごした経験を持つ人である。以前からコロナ禍で多くの留学生が日本に入国できない現状を憂慮していて、新聞などに意見を投稿してきた。アジア学院の学生も同様に入国できずにいることもよく承知していた。

コロナ禍でこれまで入国できなかった外国人は約37万人いて、うち14万7千人(約40%)が留学予定者であると言われている。これは一度ビザが下りた人の数であって、ビザの申請すらできないでいるアジア学院の入学予定者のような人は含まれていないと思われる。これまで外国人観光客が入国できないことはよく報道されてきたが、1年、2年という長期計画をして日本で勉強をしようと考えていた留学生についてはほとんど取り上げられたことがなかった。政府は今年5月から国費留学生に限ってビザを発給を再開したが、その留学生の数はコロナ前の同時期と比べてわずか1割で、「日本は主要7カ国(G7)でも最も厳しい規制が維持されている。」とあった。

実は留学生にビザが下りるようになったとしても、アジア学院の学生はその対象にはならない。それは専門学校として認可されているアジア学院の特

殊性からだ。1990年6月に改正された出入国管理及び難民認定法には、「各種学校、専修学校等に外国人が入学する場合はこれらの学校において教育を受けるに足る日本語能力があることをあらかじめ証明しなければならない」とある。その条件をクリアする方法は2つで、ひとつは入国前に日本語能力試験で一定の成績を納めていること、もうひとつは入国後に所定の日本語の語学機関に入ることが決まっていることだ。アジア学院に入学する学生はその両方の条件を満たさない。この法改正の前までは、アジア学院の学生には就学ビザというものが下りていたのだが、法改正後は入国のためのビザがなくなってしまった。

そこで困った当時のアジア学院の職員たちは法務省に掛け合い、結果的に1991年3月に法務大臣より「特別上陸許可」なるものが下りることになった。それは学生たちが各国でまず短期ビザ（観光ビザ）を取得して一旦入国し、入国後に留学ビザに資格変更をするという特別な手続きだ。これは他の学校には認められていない極めて特別な待遇なのである。しかし現在までの30年間この手続きを踏んで、800人以上の学生が入学を果たしてきた。

この特別な手続きはやや面倒ではあるものの、アジア学院の学生のように入国前に日本語習得の機会がなく、入国後も英語で学業を習得するために日本語を習得する必要がない学生が（専門学校に）留学する唯一の方法として機能してきた。ところが、今この特別の手続きがかえってあだとなっている。嬉しいことに11月2日に政府はようやくビジネス入国者・留学生対象に水際対策を緩和する意向があることを発表したのだが、観光客はまだ対象外だ。アジア学院の学生はたとえ入国後に留学ビザに切り替えて留学生として滞在するとしても、入国時には観光ビザを取得しなければならないため、表向きは観光客と同様である。つまりまだ水際対策の緩和の対象外なのだ。アジア学院の入学予定者は2020年度の予定者から含めると43名にのぼる。この43名の春はまだまだ遠い。

YMCAだより

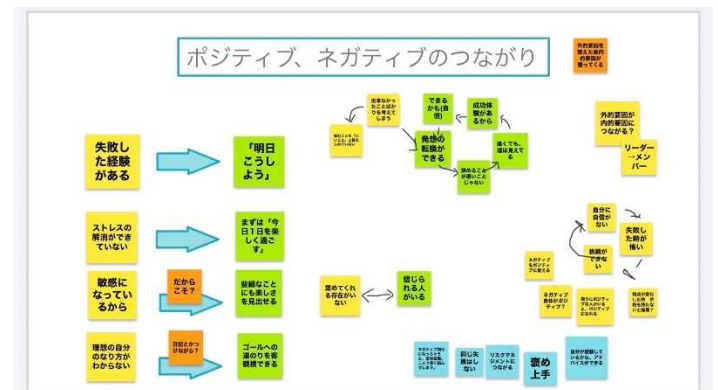
【全国リーダー研修会が始まりました！】

10月17日（日）にとちぎYMCA主幹の全国リーダー研修会がスタートしました。

今回の全国リーダー研修会は初めての完全オンラインでの実施となり、期間も約1カ月と長期間のものになります。

初日は基調講演で批評家・随筆家の若松英輔氏より「答えなき問いを生きる」ことを題材にお話を頂きました。非常に難しい問いでリーダーたち、スタッフも事務局も基調講演を受け悩み考えました。そこからリーダーたちはそれぞれのグループに分かれ、「Negative capability × X = Positive Well-being」のXの正体を考える時間となりました。

リーダーもスタッフも共に悩み、11月末にどのような答えが出るか今から楽しみです。



【緊急支援休眠預金事業 秋のラフティングチャレンジを行いました！】

10月9日（土）に鬼怒川ラフティングNAOCにて緊急支援休眠預金事業 秋のラフティングチャレンジを行いました。



この事業は栃木県内にある他の自然体験団体とコンソーシアムを作り、休眠預金を利用し困窮世帯や金銭的に自然体験への参加が難しい子どもたちを対象に「全ての子どもたちへ自然の恵みを届ける」を目的に行っております。とちぎYMCAでは子どもの家アットホームきよはらの子どもたち7名がラフティングに参加しました。初めてのラフティングや高台からの飛び込み、リーダーとの交流を通して子どもたちからたくさんの笑顔が見られました。今後も「全ての子どもたちへ自然の恵みを届ける」活動を展開していきます。

【とちぎYMCAウィンタープログラムが始まります！】

11月5日（金）より、冬休みプログラムの募集受付が始まります。スキーキャンプやデイキャンプなど楽しい企画が盛りだくさんです。

是非、沢山の方にお誘い頂き、ご参加お待ちしております！

WEB受付：11/5（金）～

【とちぎYMCA・那須YMCAの11月の予定】

- ・11/6（土） サタデークラブ@御殿山公園（ハイキング）
- ・11/14（日） 秋祭り@宇都宮市青少年活動センター
- ・11/20（土） サタデークラブ@御殿山公園（ハイキング）
- ・11/21（日） Yキッズ@宇都宮市冒険活動センター（野外炊飯）
- ・11/28（土） サタデークラブ@西那須野幼稚園（落ち葉遊び）

ユースリーダーのつぶやき

1. 名前（リーダー名） 2. 学校名 3. 出身地 4. YMCAに入ったきっかけは？ 5. 思い出に残った活動とその理由は？ 6. 今後の進路は？ 7. YMCAに一言



- ①塩畑友梨（ちえり）
- ②国際医療福祉大学 保健医療学部 看護学科
- ③茨城県
- ④子どもが好きで子どもに関わるボランティアをしたいと思ったから。

⑤サマプロ チョイス①で初めてプログラムリーダーを経験したこと。

理由→初めてプログラムリーダーを経験し、プログラムを全体から見てメンバー達が成長していく過程を実感することが出来たから。

⑥看護師

⑦まだリーダー1年目なのでYMCAの活動を通して、メンバーが持つ幅広い視点や感性を大切にしながらプログラムに参加していきたいです。



遠山師宅の地図

編集後記

緊急事態宣言も解除され、少しは以前の生活に戻っておりますが、まだまだ注意が必要です。対面の活動となりますがしっかりと、対策をとっての活動をいたしましょう！検温、指先手のアルコール消毒、マスク、三蜜にならないように注意。よろしくお願いいたします。